

アンケート調査

ひるま矯正歯科では、8月中旬に来院された方全員にアンケートのご協力をお願いいたしました。アンケートでは、皆様の通いやすい曜日と時間帯、および担当衛生士制についてお尋ねし、280名近くの方から回答をいただきました。ご協力いただいた皆様誠にありがとうございました。担当衛生士制については誤解が一部にあったようですが、それに対する説明と、アンケート集計結果、頂いたご意見、集計結果に対する当院からのコメントを別紙に掲載しましたので、ご覧ください。なお、アンケート結果は、来年4月からの改正のための貴重な資料として活用させていただきます。

Tooth Wear — 第3の歯科疾患

Tooth Wearとは聞き慣れない言葉ですが、いまだ定まった訳語がないためそのまま歯科用語として使われています。Tooth Wearとは咬耗、摩擦、酸蝕に代表される歯表面の損失症候群をいいますが、世界歯科連盟(FDI)が2000年に「Tooth Wearを医学的な疫学として考えていこう」と呼びかけたことから、う蝕や歯周病に続く第3の歯科疾患として注目されています。これまでの調査研究から、適切なメインテナンスを行えば歯周病やう蝕による歯の喪失は防げる、というのが今の歯科医学の考え方ですが、う蝕や

歯周病が減るなかで社会の高齢化が進むと、残存歯を多く持つ高齢者が増えることにより、Tooth Wearが新たな問題になるだろうといわれています。ある学者によると、Tooth Wearの罹患率は80%にもおよび、にもかかわらず疾病として認識されていないSilent diseaseであるとして、歯科関係者に強く認識を持つよう呼びかけています。Tooth Wearは進行により歯の形態に変化が生じ、歯冠部から新たなう蝕や歯周病が生ずる恐れに加え、咬耗やブラッシングなどの物理的刺激が複合的に作用して、エナメル質が消失し象牙質が露出してくるとされて

います。Tooth Wearは進行が緩徐であるため自覚がむずかしいといわれていますが、象牙質知覚過敏などの症状が見られると診断が容易であることから、「歯がしみる」と訴える患者さんは「Tooth Wearを疑うよう専門家は呼びかけています。8020運動が功を奏する時代になりつつある今、歯科関係者には、ただ歯を残すだけでなく高齢になっても健康な若い状態の歯を残していく視点が求められています。高齢化社会の時代を迎え、歯ブラシや歯磨剤の選択さらには食生活などを改善することが、歯科を通じてのアンチエイジングに

和宮様御留

いまNHKの大河ドラマ『篤姫』が面白い。友人5人に「観てる？」と聞いたら4人が「観てる！」と応えたところを見ると、中年のオジサンたちにも受けているようです。人気の秘密は、幕末から明治維新へと続く男性的な史実を、歴史の影で活躍した主人公篤姫をはじめとする女性達の姿に焦点を当て、それをホームドラマ的に描いたことだとテレビウオッチャーは解説しています。第33回では、いよいよ皇女和宮が登場しました。皇女和宮の降嫁は、倒幕を目指す勢力の追い落としのため、公武合体の政略結婚以外なしとする大老・井伊直弼の深謀によるものです。和宮には有栖川宮という婚約者があり、その婚約を解消させたいと遠い関東まで行かせるのはあまりに不憫と、孝明天皇が怒いながらも公卿岩倉具視の説得もありやむなく降嫁を認めるくだりはドラマで知るとおりです。

將軍家茂に嫁いだこの和宮が、実は替え玉であったという説があります。昭和53年、これを主題に有吉佐和子が書いた歴史小説『和宮様御留』は、当時大ベストセラーになりました。和宮は足が不自由だったといわれていますが、増上寺の墓所発掘調査で和宮に足の異常は見られなかったという報告が、和宮すり替え説の根拠になったと有吉佐和子は後書きで書いています。小説の内容はミステリアスかつショッキングですが、読んでいない方はこの機会に読まれると、ドラマ『篤姫』をより面白く観ることができるとおもいます。

小説『和宮様御留』が話題になった昭和53年は、ひるま矯正歯科が開業した年でした。最初のひとは患者さんの予約などまったくない日も多く、従業員もおらず家内と二人だけのオフィスで、ふと読み出したのがこの『和宮様御留』でした。あり余る時間のなかで、ハードカバーのこの長編を二人ともアツという間に読み終えたのを覚えていてます。その後まもなく小説を読む時間は無くなりましたが、以来「皇女和宮」という言葉を聞くと開業間もない頃の情景がいろいろ思い出され、その度に二人であの頃のことを懐かしく話します。光陰矢の如し、ひるま矯正歯科は今年で丸30年を迎えました。

ひるままだより
2008.09 vol.23

医療法人社団 トモニアム
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:http://www.hiruma.or.jp/

スタッフリレーエッセイ



ひるま矯正歯科
歯科技工士
岩下貴史

初めまして。歯科技工士の岩下貴史です。以前は一般歯科医院でインレーやクラウンなどの補綴(はて)物を作っていました。一般歯科医院では、歯並びを治したいという患者さんには、虫歯になつていない歯質までも削って人工の歯を被せる「矯正」をしていました。もともと並びの悪い歯は歯根の位置も悪く、そこにきちんと歯を並べて作るのは技術的にとても難しく、幅の狭い歯を

広く見せたり、短い歯を長く見せたり、斜めの歯をまっすぐに見

せる特別のテクニックが必要でした。そうして出来た患者さんの新しい歯は、笑ったときに見える範囲では確かに前よりもきれいになります。歯根の位置が変わっていないため、歯の向きが不自然だったり、歯と歯が接する部分の形がうまくいかないなどしばしば問題が生じました。また、人工歯にしたために元の歯より清掃がしにくくなることもあり、担当医と相談し悩みながら作っていたものです。

ひるま矯正歯科に来てリテーナーやスタディーモデルを作製し、きれいに並んだ天然歯はやはり人工の歯とは違って、自然で良いなとつくづく感じます。これからは矯正歯科の技工士として患者さんのために何が出来るか、いま思考している所です。

▼11月4日(火)はDr.中山によるペリオセミナーが院内で行なわれるため、全日休診となります。

▼歯科助手の河林さんは事情によりしばらくの間欠勤します。